

第47回四日市市美術展覧会 審査講評

【日本画部門】

四日市の日本画の底力を感じました。

市長賞《観櫻》は箔を平面的に配置し、伝統的な表現の中にも、力強い構成が目を見張ります。市議会議長賞《梅雨の気だるさ》は日常生活のリアリティが見事にワントーンでまとめられ、作品に物語を感じさせます。教育委員会賞《記憶のカケラたち》は、大画面の隅々まで素材へのこだわりを追求した作品です。今年は、高校生の活躍が新しい風を吹かせていました。また、キャリアの長い方からも創作の幅を広げようと挑戦された作品が生み出されていたように感じます。皆様の次の作品を楽しみに待っています。

【洋画部門】

今年度の洋画部門の一般公募は、昨年度よりも若干増えました。これは大変喜ばしいことです。何よりも特徴的な点は、今の時代を反映した作品が多いことでしょう。コロナ禍の今、絵と向き合い、創造するという行為は今まで以上に大きな意味を持ち、前に進む原動力となっていると思います。隅々まで丁寧に描くこと、構図や色彩に工夫をこらすとともに、描く楽しみを何より大切に制作を続けられることを期待したいと思います。

【彫刻部門】

彫刻部門の出品数は、全体の中ではそう多くありません。しかし、いずれの作品も作者の個性がはっきりと現れた、力のこもったものでした。また、多彩な内容で、審査に苦慮する場面もありました。市長賞受賞作「鮫鱈・2020」は、作者独自の視点によって生み出された迫力ある造形が評価されました。なお、受賞は逃したものの、能面の完成度はおしなべて高く、日頃の研鑽がうかがえるものばかりであったことを申し添えます。来年度以降も更なる力作が多数出品されることを期待いたします。

【工芸部門】

令和2年度の出品数はコロナ禍にもかかわらず、ほぼ例年とかわらぬ多彩な作品が出品されました。市長賞の《花模様季箱（3組）》は、木目を繊細にちりばめた新しい試みともいえるべき作品で、工芸そのものの持つ楽しさを感じさせる作品でした。時代の流れをくみとった、挑戦的で若々しい作品を期待します。

【書道部門】

新型コロナウイルスの影響からか、昨年比24点の減でした。それでも84点の一般公募作品が集まり、各々大変な状況の中で作品制作されたことに感動し感謝を申し上げます。上位の賞に入られた作品は、借り物ではなく、描き込んだことによる自己表出が見事に結実されました。市長賞は、線質が強く密度の高い作品で、文字の大小も心地よいです。市議会議長賞は、仮名作品で墨継ぎが巧妙で、行間の響きもよく、色あいも綺麗で周囲の空気まで澄ましてくれるようです。教育委員会賞は、字幅も広く行間の余白も素晴らしく、落款を大きく書いたことも良かったです。

【写真部門】

今回は、前回に比べ少ない作品数ではありましたが、バラエティに富んだ様々な作品が出品されました。モノクロ写真の奮起を望むとの昨年度講評を受けてか、数多く見られたのは喜ばしい事でもありました。市長賞《逞しき本源》では鮮やかな色彩に浮かび上がる弱肉強食の世界を真正面から見事に捉え、市議会議長賞《虹のひだまり》はデジタル技術を使ってモノトーン調の中に煌く光が印象的でした。今回の出品作品は、ジャンルやカラー、モノクロ等が偏る事もなく、全体的に見応えのある作品が多かったと思います。